

You,
Unlimited



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

2018年度

龍谷大学

スポーツ活動選抜入学試験要項
文化・芸術・社会活動選抜入学試験要項

龍谷大学 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

龍谷大学は、建学の精神（浄土真宗の精神）に基づいて、「平等」、「自立」、「内省」、「感謝」、「平和」の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、「広い学識」と「進取の精神」を持って人類社会に貢献する人間を育成することを「教育にかかる基本方針」として掲げています。この基本方針に基づき、次の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を掲げています。

龍谷大学の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）は、価値観が多様化する社会において、本学の建学の精神を体現するための意欲と各学部での教育に必要な適性を有した学生を、幅広く受け入れることを基本とします。

各学部は、龍谷大学の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）のもと、各学部それぞれの学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針に基づき、各学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定めるとともに、各入学試験を設定しています。

■各学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

○文学部

文学部では、建学の精神に基づいて、人文学の知的体系の研究・教授を通じ、現代社会の複雑な変化や諸問題に、自己を見失うことなく積極的・主体的に対応しつつ、社会に貢献できる教養及び専門性を備えた人の育成を目指しています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

- 1) 文学部の教育理念や目的を十分に理解している人
- 2) 明確な目的意識と学修意欲とを持った人
- 3) 人文学の基盤となる「言葉」に対する鋭い感覚と正しい理解、そして豊かな運用能力のさらなる向上をめざして努力することのできる人

については、高等学校等での学習では、直接「言葉」に関する教科である「国語」、「英語（外国語）」を中心としつつ、志望する学科・専攻での専門的な学修に必要な基礎的学力を養うる教科についても幅広く学んでおくことを望みます。

○経済学部

経済学部では、21世紀初頭において日本と世界の経済が大きな転換期を迎えるなかで、経済のグローバル化、情報化、地域経済の役割の増大などといった現代社会が直面する課題に対応できるような人の育成を目指しています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

- 1) 社会に対する幅広い関心を持ち、主体的に学修できる人
- 2) 様々なツールを用いて、自己を豊かに表現する能力をもった人
- 3) 新たな問題を発見し、その解決に自ら進んで取り組む人

については、高等学校等での学習では、経済学部で教育を受けるうえで必要な幅広い教科の内容をしっかりと勉強することを望みます。

○経営学部

経営学部では、学生のそれぞれの学修目標にあわせて、少人数の演習学修と、理論と実践を組み合わせたカリキュラムを提供することによって、変化の激しい時代に対応でき、社会から信頼される経営人（働くことを通して社会に貢献する人材）を育成することを目指しています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

- 1) 明確な目的意識と学修意欲をもった人
- 2) さまざまな場面で基本的な能力として求められるコミュニケーション能力をもった人
- 3) 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む人

については、高等学校等での学習では、国語や外国語の習得によりコミュニケーション能力を磨き、また社会科科目の幅広い習得により知的好奇心を高めることを望みます。

○法学部

法学部では、日本国憲法の理念を基礎に、法学と政治学の教育・研究を通じて、広い教養と専門的な知識をもって主体的に行動し、鋭い人権感覚と正義感のもとに自ら発見した問題を社会と連携して解決できる、自立的な市民の育成を目指しています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

- 1) 現代社会に生起する諸問題に広く関心を有するとともに、その解決に取り組む意欲を有する人
- 2) 問題を論理的に分析する能力や、自らの意見を論理的に表明する能力を有する人
- 3) 自ら問題を発見し、それについて自ら考え、行動する能力を有する人

ついては、高等学校等での学習では、国語や英語の学習を通して論理的思考力を養うとともに、他者の考えを理解し自らの考えを表明する力を鍛えること、歴史などの社会科科目の学習を通して現代社会に対する問題意識を高めることを望みます。

○政策学部

政策学部では、幅広い教養と専門的な知識を身につけて社会の持続可能な発展のために行動し、協働型社会を担うために必要な公共性と市民性を持ち、国際的な視点から政策を提案し実行する能力を備えた人の育成をめざしています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

- 1) 人文・社会・自然科学の領域について幅広い関心を持ち、総合的な観点から現代社会の課題解決に取り組む意欲を持っている人
- 2) 国際的な視点から都市問題、環境問題などの地域社会の課題を解決することに関心を持っている人
- 3) 協働型社会を支える公共性と市民性を学ぶ意欲を持ち、政策立案と実施能力を備えた専門的職業人となるために勉学に取り組む人

ついては、高等学校等での学習では、コミュニケーション能力と論理的思考力を養い、国内外の社会問題に関心を持てるように、幅広く勉強することを望みます。

○国際学部

国際学部では、異文化への理解を深めるとともに、自文化についての発信力を養い、グローバル化が加速する時代において、柔軟な思考と批判的精神をもって対応できるコミュニケーション能力、問題解決能力及び倫理観を備えた人間の育成を目指しています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

- 1) グローバル化が加速する時代の動向に強い関心と好奇心を有し、学部の教育理念を深く理解し、強い意欲をもって学んでいこうとする人
- 2) 異文化に対して寛容かつ柔軟に対応でき、国際的に貢献したいという明確な目的意識をもった人
- 3) 英語をはじめとする外国語の能力が高く、さらなる向上を目指す人

したがって、高等学校等での学習では、入学までに必要な基礎学力として、様々なコミュニケーションを行う上での基本ツールとなる英語、国語を中心として、国際学部で教育を受ける上で基本となる地理・歴史等、社会や文化に関連する科目を幅広く勉強し、併せて日頃から国内外の社会の動向に関心を持つことを望みます。

○理工学部

理工学部では、現代の自然科学を代表するキーワードである「情報」「システム」「エネルギー」「材料・物質」「環境」に対応し、人間と地球環境に調和した科学・技術の発展を支える6学科で構成されています。それぞれの学科において、最新の理学と工学を融合させることにより、新しい視点に立った学問の道を開き、時代の要請にかなった先端技術の発展に寄与する人材の育成を目指しています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

- 1) 広い分野にわたり基礎学力に優れ、科学的センスを持っている人
- 2) 明確な目的意識と勉学意欲を持っている人
- 3) 知的好奇心や自然科学への関心を持っている人

ついては、高等学校等での学習では、科学技術を学ぶ上で不可欠な英語・数学・理科を中心に、理工学部で教育を受ける上で基本となる高校での教科を幅広くしっかりと勉強していることを望みます。

○社会学部

社会学部では、社会を単なる人と人との結びつきと捉えるだけでなく、社会と環境との結びつきをも重視する必要があると考え、社会や地域における多様な関係を尊重する教育理念を掲げています。このような理念のもと、IT化、グローバル化、少子高齢化など急速な社会変化によって生じる現代社会の諸課題に対して、創造的に対応できる知識や専門的能力、問題解決能力を持った人の育成をめざしています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

- 1) 現代社会に関して幅広く関心をもち、社会学部の教育理念を深く理解し、明確な目的意識をもって勉学に取り組む人
- 2) 社会や地域に生起する諸問題を分析し、その解決を図る方法について考察する能力をもった人（社会学科・コミュニティマネジメント学科）
- 3) 社会福祉に関心をもち、社会福祉専門職としての支援や、地域・企業・学校などさまざまな領域での社会貢献活動に意欲をもつ人（現代福祉学科）

については、高等学校等での学習では、さまざまなコミュニケーションを行う上での基本ツールとなる国語、英語、加えて、社会や歴史に関する科目を中心として、社会や身の回りのさまざまな事象に興味・関心が持てるよう、すべての教科を幅広くしっかりと勉強することを望みます。

○農学部

生命・資源・食料・経済 ～未来への持続可能な農業をめざして～

農学部の教育は、自然科学の領域だけでなく、人文・社会科学の領域や食品栄養学の領域を含む、幅広い分野の教育を、融合的に行うことをめざしています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

1. これら「食」と「農」を支える領域への幅広い興味と、農学への強い意欲をもっている人
2. 農学の教育を行うにあたって、自然科学と社会科学に関心があり、関連する実習や実験をやり遂げる意思と能力をもった人

については、高等学校等での学習では、農学部で教育を受ける上で基本となる高校での教科を幅広く基礎的事項についてしっかり勉強することを望みます。

〈植物生命科学科〉

本学科では、農業の基礎となる農作物の生育や変異の仕組みを正しく理解するために、植物を中心とした生命科学領域を学びます。このため、生物学、化学をはじめとする自然科学的基礎学力を習得し、コミュニケーション能力と学びに対する積極性を有している人を求めます。

〈資源生物科学科〉

本学科では、「食の安全・安心」を支える農作物を生産する上で不可欠な技術などを正しく理解するために、農業に直結する自然科学領域を中心に学びます。このため、生物学、化学をはじめとする自然科学的基礎学力を習得し、コミュニケーション能力と学びに対する積極性を有している人を求めます。

〈食料農業システム学科〉

本学科では「食」と「農」に関わる問題を、単なる技術的な問題ではなく、「社会や経済の仕組みの問題」として正しく理解し、その解決方法を検討・考察するために「食と農に関わる社会科学」を中心に学びます。文系科目の基礎学力がある人、もしくは理系科目の基礎学力がある人の双方を希望します。また、「食」と「農」に関わる国内外の社会問題・経済問題を学ぶためには、農業の現場においてフィールドワークを行うことが重要な意味をもっています。コミュニケーション能力と学びに対する積極性を有している人を求めます。

○短期大学部

〈社会福祉学科〉

社会福祉学科では、講義や演習だけでなく、社会福祉施設等における実習教育など、実社会での実践的・体験的な学びを重視しています。そのような学びの中で、豊かな人間性、共生（ともいき）の精神、広い学識、進取の精神、福祉全般にわたる基礎的教養、専門的知識、実践的能力を身に付けた人の育成を目指しています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

- 1) 読み書きなどの基礎的な学力を確実に身につけた人
- 2) 行動力や主体的に学ぶ姿勢、社会性、多様な立場の人たちとコミュニケーションをとる力、体験をとおして多くのことを感じ取るための鋭い感性、そして、体験をとおして感じたことを整理する力、つまり思考力や文章力など、実践的・体験的な学習に必要な力をもった人
- 3) ディスカッションを行う能力や、ディスカッションをとおして多様な考え方があることを知り、多様な考え方から多様なことを柔軟に学び取る能力をもった人
- 4) 短期大学部の教育理念を深く理解し、明確な目的意識と勉学意欲をもった人

については、高等学校等の学習では、コミュニケーションを行う上での基本ツールとなる国語、英語を中心として幅広く教科を勉強し、基礎的な学力を確実に身につけるとともに、入学までにさまざまな体験に積極的にチャレンジし、明確な目的意識を形成し、体験をとおしてさまざまなことを学び取ることに慣れておくことを望みます。

〈こども教育学科〉

次代における保育・幼児教育の専門職養成をめざす、こども教育学科のアドミッションポリシーは、その目的達成のために以下の3点の適性を重視して入学者の選抜を行う。

- 1) 教育の前提であり、保育・幼児教育の専門職となるための適性として、一定程度の国語力（読む・書く・話す等、言語的なコミュニケーションの力）を有する者であること。
- 2) 専門職となるための適性として、相応の生活経験（掃除、調理や洗濯等の家事遂行の経験等）を有する者であること。
- 3) 保育・幼児教育現場の特性に考慮し、一定程度の臨機応変な対応能力（即興で課題に取り組む意欲や機転、発想力等）を有する者であること。

趣 旨

1. スポーツの分野において優れた能力と実績を持つ者を選抜し、国内外の舞台で活躍する個性豊かな人材を育成することによって、スポーツの振興に寄与することを目的としています。
2. 文化活動・芸術活動・社会活動等において優れた能力と実績を持つ者を選抜し、国内外の舞台で活躍する個性豊かな人材を育成することにより、文化・芸術・社会活動の振興・活性化に貢献することを目的としています。
3. 本学を専願とし、入学後も学業およびサークルでの課外活動を両立しうる者を選抜するものです。

募集学部・学科・専攻・募集人員

| 学 部 | 学 科 ・ 専 攻 | 募 集 人 員 | | |
|---------------|-----------------------------|------------------|----------------------|--|
| | | スポーツ活動 選抜入学試験 | 文化・芸術・社会活動 選抜入学試験 | |
| 文 学 部 | 真 宗 学 科 | 5名 | | |
| | 仏 教 学 科 | 5名 | | |
| | 哲 学 科 | 哲 学 専 攻 | 3名 | |
| | | 教 育 学 専 攻 | 3名 | |
| | 臨 床 心 理 学 科 | 4名 | | |
| | 歴 史 学 科 | 日 本 史 学 専 攻 | 3名 | |
| | | 東 洋 史 学 専 攻 | 3名 | |
| | | 仏 教 史 学 専 攻 | 4名 | |
| | | 文 化 遺 産 学 専 攻 | 2名 | |
| | 日 本 語 日 本 文 学 科 | 4名 | | |
| 英 語 英 米 文 学 科 | 4名 | | | |
| 経 済 学 部 | 現 代 経 済 学 科※ 国 際 経 済 学 科 | 22名 | | |
| 経 営 学 部 | 経 営 学 科 | 20名 | | |
| 法 学 部 | 法 律 学 科 | 15名 | | |
| 政 策 学 部 | 政 策 学 科 | 11名 | | |
| 国 際 学 部 | 国 際 文 化 学 科 | 16名 | | |
| | グローバルスタディーズ学科 | 2名 | | |
| 理 工 学 部 | 数 理 情 報 学 科 | 2名 | | |
| | 電 子 情 報 学 科 | 2名 | | |
| | 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 | 2名 | | |
| | 物 質 化 学 科 | 2名 | | |
| | 情 報 メ デ ィ ア 学 科 | 2名 | | |
| | 環 境 ソ リ ュ ー シ ョ ン 工 学 科 | 2名 | | |
| 社 会 学 部 | 社 会 学 科 | 7名 | | |
| | コミュニティマネジメント学科 | 16名 | | |
| | 現 代 福 祉 学 科 | 6名 | | |
| 農 学 部 | 植 物 生 命 科 学 科 | 1名 | | |
| | 資 源 生 物 科 学 科 | 2名 | | |
| | 食 料 農 業 シ ス テ ム 学 科 | 3名 | | |
| 短 期 大 学 部 | 社 会 福 祉 学 科 | 8名 | | |
| | こ だ も 教 育 学 科 | 1名 | | |

※経済学部は、現代経済学科・国際経済学科の2学科で一括して募集を行います。

※募集人員は「スポーツ活動選抜入学試験」「文化・芸術・社会活動選抜入学試験」の2つの入学試験を合わせた数です。

※本学では、スポーツ活動における重点サークルとして、①アメリカンフットボール部 ②硬式野球部の2つを指定しています。また、強化サークルとして、①柔道部 ②卓球部 ③端艇部 ④女子バレーボール部 ⑤バドミントン部 ⑥ラグビー部 ⑦陸上競技部の7つを指定しています。この9サークルについては、競技実績に関わる出願資格が本入試よりも高いレベルのものを必要とする「スポーツ活動《特別》選抜入学試験」を実施しています。詳細は龍谷大学学生部（TEL：075-645-7889）へお問い合わせください。

注 意 事 項

- (1) 本入試は専願制の入学試験です。合格した場合は必ず入学手続をしなければなりません。また、本入試に出願中は他の専願制入試へ出願（スポーツ活動選抜入試／文化・芸術・社会活動入試の予備選考を含む）することはできません。ただし、本入試で不合格となった場合は他の専願制入試に出願が可能です。以上について、十分理解した上で出願してください。
- (2) 試験中はすべて監督者の指示に従ってください。指示に従わないときは不正行為とみなし、全科目を無効とします。
- (3) 虚偽、不正な記載または出願資格に反する事実が明らかになった場合は、入学を取り消します。
- (4) 推薦により入学を許可されたにもかかわらず、入学を辞退する者があった場合、翌年度から当該学生の在学した高等学校もしくは中等教育学校からの推薦を受け付けません。
- (5) 龍谷大学入学試験では、障がい等のある受験生のために、受験上の配慮を行います。受験上の配慮を希望する受験生は、出願等の手続をする前に本学へ必ずご連絡ください。

出 願 資 格 「スポーツ活動選抜入学試験」「文化・芸術・社会活動選抜入学試験」共通

以下の1～5の条件をすべて満たす者。

1. 本学への入学を専願とする者。
※予備選考を通過した者は、必ず本選考に出願し、受験しなければなりません。合格後は必ず入学することが前提となり、入学を辞退することはできません。本入試の趣旨をよく理解のうえ出願してください。
2. 文学部、経営学部、法学部、政策学部、国際学部、理工学部、社会学部、農学部の志願者は、次の(1)～(3)のいずれか1つに該当する者。
 - (1) 高等学校もしくは中等教育学校を2018年3月卒業見込みの者。
 - (2) 通常の課程による12年の学校教育を2018年3月修了見込みの者。
 - (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると2017年4月以降に認められる者で2018年3月31日までにこれに該当する見込みの者。(以下の①～⑤が該当します)
 - ① 外国において、学校教育における12年の課程を2017年4月以降に修了した者、および2018年3月31日までに修了見込みの者、またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
 - ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を2017年4月以降に修了した者、および2018年3月31日までに修了見込みの者。
 - ③ 文部科学大臣の指定した者。
 - ④ 文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に、2017年4月以降に合格した者、および2018年3月31日までに合格見込みの者で、2018年3月31日までに18歳に達する者。
 - ⑤ その他本学において、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2017年4月以降に下記の学校を修了した者および2018年3月31日までに修了見込みの者。
上記⑤については、以下の学校修了者（修了見込者）に出願資格を認めています。
【朝鮮高級学校：12校】北海道朝鮮初中高級学校、東北朝鮮初中高級学校、茨城朝鮮初中高級学校、東京朝鮮中高級学校、神奈川朝鮮中高級学校、愛知朝鮮中高級学校、京都朝鮮中高級学校、大阪朝鮮高級学校、神戸朝鮮高級学校、広島朝鮮初中高級学校、山口朝鮮高級学校、九州朝鮮中高級学校
【外国人学校：5校】東京インターナショナル・ラーニング・コミュニティ、ファウンテン・オブ・ライフ・インターナショナルスクール、インターナショナル・セカンダリー・スクール、横浜インターナショナル・クリスチャン・アカデミー、関西クリスチャンスクール
3. 卒業あるいは修了した（見込みも含む）学校長の推薦のある者。ただし、下記(1)および(2)の推薦条件を満たしていること。
 - (1) 課外活動において、優れた資質と実績を有し、かつ本学の建学の精神を理解しようとする意欲を持ち、それによって学生生活を送ろうとする姿勢を持っている者。
 - (2) 当該学部学生として人物、学習能力、意欲の点からふさわしい者。
※既卒者・社会人（経済学部・短期学部のみ出願可）についても、上記条件に準ずる。

4. 下記の各学部の要件を満たす者。

| | |
|------------------------------|---|
| 文学部・経営学部 法学部・政策学部 社会学部 | 高等学校もしくは中等教育学校3年生1学期までの全体の評定平均値が3.3以上であること。 |
| 経済学部 | 高等学校もしくは中等教育学校を2018年3月卒業見込みの者については、3年生1学期までの全体の評定平均値が3.3以上であること。高等学校もしくは中等教育学校を2017年3月以前に卒業した者については、卒業時の全体の評定平均値が3.3以上であること。 |
| 国際学部 | <p>国際文化学科 次の①および②の条件をすべて満たす者。 ①高等学校3年生1学期までの全体の評定平均値が3.3以上であること。 ②高等学校3年生1学期までの英語の評定平均値が3.3以上であること。 または英語について以下の条件のうち1つを満たしていること。なお、過去3年以内（注1）に取得したことを実施団体が証明する正式文書（写し）を高等学校調査書に添付すること。</p> <p>a. 実用英語技能検定（英検）2級以上 b. TOEFL iBT® 45点（TOEFL® PBT 450点）以上（注2） c. TOEIC® 500点以上 d. 国際連合公用英語検定（国連英検）C級以上 e. 全国商業高等学校協会英語検定1級 f. GTEC for STUDENTS 550点以上</p> <p>他の外国語についても、上記相当の学力があると認定できる場合には、同様の取り扱いをするので、問い合わせること。</p> <p>グローバルスタディーズ学科 次の①および②の条件をすべて満たす者。 ①高等学校3年生1学期までの全体の評定平均値が3.8以上であること。 ②高等学校3年生1学期までの英語の評定平均値が4.5以上であること。 または、全体の評定平均値が3.8以上で且つ英語の評定平均値が4.0以上4.5未満の場合は、英語について以下の条件のうち1つを満たしていること。なお、過去3年以内（注1）に取得したことを実施団体が証明する正式文書（写し）を高等学校調査書に添付すること。</p> <p>a. 実用英語技能検定（英検）2級以上 b. TOEFL iBT® 55点（TOEFL® PBT 480点）以上（注2） c. TOEIC® 600点以上 d. 国際連合公用英語検定（国連英検）B級以上 e. GTEC for STUDENTS 550点以上 f. IELTS™ 5.0以上</p> <p>（注1）本学の入学試験日と該当する各種資格試験の実施日を基準とする。 （注2）TOEFL®のスコアを出願資格として用いる場合は、「Official Score Report（公式スコア票）」または「Examinee Score Report（受験者用控えスコア票）」のいずれかを提出のこと。</p> |
| 理工学部 | <p>次の①、②および③の条件をすべて満たす者。 ①高等学校もしくは中等教育学校3年生1学期までの全体の評定平均値が3.3以上であること。 ②高等学校もしくは中等教育学校3年生1学期までの数学の評定平均値が3.5以上であること。 ③普通科の場合、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bの「数列」、「ベクトル」を履修していること。 普通科以外の場合、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aを履修していること。</p> |
| 農学部 | <p>植物生命科学科、資源生物科学科 次の①および②の条件をすべて満たす者。 ①高等学校もしくは中等教育学校3年生1学期までの全体の評定平均値が3.5以上であること。 ②高等学校もしくは中等教育学校3年生1学期までの理科の評定平均値が4.0以上であること。</p> <p>食料農業システム学科 次の①および②の条件をすべて満たす者。 ①高等学校もしくは中等教育学校3年生1学期までの全体の評定平均値が3.5以上であること。 ②高等学校もしくは中等教育学校3年生1学期までの数学の評定平均値が4.0以上であること。</p> |
| 短期大学部 | 高等学校もしくは中等教育学校を2018年3月卒業見込みの者については、3年生1学期までの全体の評定平均値が3.0以上であること。高等学校もしくは中等教育学校を2017年3月以前に卒業した者については、卒業時の全体の評定平均値が3.0以上であること。 |

※2学期制の高等学校もしくは中等教育学校については、それぞれ3年生1学期相当まで、あるいは前期末までの評定平均値とする。

※出願資格2の(2)(3)に該当する者については、上記の評定平均値と同等以上の学力があると認められる者とし、評定平均値は課さない。ただし、国際学部国際文化学科・グローバルスタディーズ学科への出願は、上記a～fに定める英語運用能力を満たしていること。

5. 高等学校在学中の競技実績もしくは文化・芸術・社会活動等の課外活動において、次の(1)または(2)のどちらかの基準を満たす者で、それを証明できること。

(1) 競技実績による基準 (全学部共通)

団体成績、個人成績のうち下記の①または②のどちらかの基準を満たす者。

① 団体成績においては、都道府県大会あるいは同コンクールにおいて8位（ベスト8）以上となったチームのレギュラー競技者、出演者等であること（マネージャー等の競技者、出演者でない者は除く）。

② 個人成績においては、都道府県大会、コンクールにおいて6位以内の入賞者であること。

※団体成績は当該出願者が出場、出演した試合もしくはコンクールの成績に限る。

※客観的資料によって、その成績が証明できるものであること（詳しくは14ページ参照）。

※上記の成績以下であっても特に優れた素質を有する者については下記による出願を認める。

〈当該種目の連盟専門部の部長（または理事長、委員長）の推薦する者〉

(2) 文化・芸術・社会活動等の課外活動による基準

文化活動、芸術活動、ボランティア等の社会活動、各種検定、特技等の面において顕著な実績を有し、各学部の要件を満たす者。

※客観的資料によって、その成績が証明できるものであること（詳しくは14ページ参照）。

| | |
|-------|--|
| 文学部 | 文化活動等の課外活動において、特に優れた実績をあげた者。 |
| 経済学部 | ボランティア等の社会活動分野、文化・芸能・特技・各種検定等の分野において、特に優れた実績をあげた者。 |
| 経営学部 | 文化活動等の課外活動において、特に優れた実績をあげた者。特に本学部の特色を考慮して、簿記、情報処理、外国語等の各種検定において優れた技能を有する者が望ましい。 |
| 法学部 | 文化活動等の課外活動において、特に優れた実績をあげた者。または、弁論・文筆活動、生徒会活動、福祉ボランティア等の社会活動・地域活動、外国語等の習得、書・絵画・音楽の分野において顕著な実績を有する者。 |
| 政策学部 | 文化活動等の課外活動において、特に優れた実績をあげた者。または、まちづくり、地域おこし、環境保護、ボランティア活動等の社会地域活動において顕著な実績を有する者。 |
| 国際学部 | 文化活動等の課外活動において、特に優れた実績をあげた者。 |
| 理工学部 | 文化活動等の課外活動において顕著な実績をあげた者。特に本学部の特色に関連した資格、技能、実績などを有する者。 |
| 社会学部 | まちづくり・地域おこし活動・ボランティア等の社会活動分野、文化・芸術等の課外活動において、特に優れた実績をあげた者が望ましい。 |
| 農学部 | 【文化活動等】文化・芸術の分野（音楽・放送・演劇・美術・文芸・書道・弁論等）における全国大会、地区大会および都道府県大会において入賞し、かつ、その活動団体において中心的役割を果たした者。または、個人能力がそれに相当すると評価できる者。 【社会活動】ボランティア活動、社会活動の団体に所属し、模範的活動を行った者、または中心的役割を果たした者。 |
| 短期大学部 | ボランティア活動、福祉・文化活動等の課外活動において、特に優れた実績をあげた者。または、学力だけでなく感性、行動力を含む総合的な成長をめざす本学部の特色を考慮して、学内外での福祉的活動を通して感性や行動力を顕著に高めることができた者。 |

※出願資格、出願書類等、入学試験に関する不明な点は、入試部（TEL：075-645-7887 平日9：00～17：00）までお問い合わせください。

選考方法 「スポーツ活動選抜入学試験」「文化・芸術・社会活動選抜入学試験」共通

書類審査による予備選考を行い、予備選考通過者が本選考に出願することができます。

1. 予備選考

(1) 出願期間

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 予備選考出願期間 | 2017年9月11日(月)～2017年9月19日(火) (締切日消印有効) |
|----------|---------------------------------------|

※予備選考出願の際には、受験料は必要ありません。

(2) 出願書類 (いったん提出された書類は、返却しません。出願書類に不備や虚偽の記載があった場合には受験できません。)

①予備選考等連絡シート (本学所定用紙)

写真は入学が許可された場合には、学生証や教務情報等に使用します。本学を卒業するまで使用するのに相応しい服装とします (制服以外が望ましい)。

※入学後、学生証の写真を差し替える場合は、有償となります。

②学校長推薦書 (本学所定用紙)

出願資格2の(3)の④に該当する者は不要です。

③調査書

●高等学校もしくは中等教育学校卒業見込み者

高等学校もしくは中等教育学校3年生1学期までの全体の評定平均値の記載された調査書を提出してください。2学期制の高等学校もしくは中等教育学校については、それぞれ3年生1学期相当まで、あるいは前期末までの全体の評定平均値とします。

※評価時期について調査書備考欄等に、“1学期末”・“前期末”・“1学期末相当 (〇月〇日現在)”のいずれかを記載してください。学校長推薦書に記載の評価時期と異ならないようご注意ください。

●高等学校もしくは中等教育学校を2017年3月31日以前に卒業した者

出願前3カ月以内に作成された調査書を提出してください。

※学校長推薦書に記載の評価時期と異ならないようご注意ください。

●高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

成績証明書および修了証明書を提出してください。

④活動実績証明書 (本学所定用紙) … 「活動実績証明書」記入要領 (14ページ) を参照してください。

⑤自己推薦書 (本学所定用紙)

(3) 送付先

〒604-8799 中京郵便局留「龍谷大学入学試験願書受付センター」宛 (郵送に限ります)

(本学所定の予備選考用封筒にて簡易書留・速達で郵送してください)

(4) 選考方法

予備選考出願時に提出される出願書類を総合的に判定して、予備選考通過者を決定します (書類審査)。

(5) 結果発表

2017年10月28日(土)に、学校長宛に簡易書留・速達で、本人宛に特定記録・速達で郵送します。

※予備選考に通過した場合でも、本選考に改めて出願する必要があります。

個人情報の取り扱いについて

出願書類等に記入された個人情報は、受験票発行や可否結果通知等本学入学試験に関わる事項および個人を特定しない各種統計資料作成のために使用いたします。また、本人の同意を得ることなく第三者に個人情報を提供することはありません。

※本学の個人情報保護への取り組みについては以下のホームページにてご確認ください。

<http://www.ryukoku.ac.jp/privacy.html>

2. 本選考

本選考は予備選考通過者のみ出願できます。

(1) 出願期間

| | |
|---------|--|
| 本選考出願期間 | 2017年10月30日(月)～2017年11月2日(木) (締切日消印有効) |
|---------|--|

競技大会等で選考日に受験ができない場合は、本選考出願期間開始日当日の午後3時までに、必ず入試部 (TEL: 075-645-7887 平日9:00～17:00) へ連絡してください。

(2) 出願書類 (いったん提出された書類は、返却しません。出願書類に不備や虚偽の記載があった場合には受験できません。)

①出願シート (本学所定用紙) ※予備選考通過者のみ、予備選考結果通知とともに送ります。

(3) 送付先

〒604-8799 中京郵便局留「龍谷大学入学試験願書受付センター」宛（郵送に限ります）

（本学所定の**本選考用封筒**にて簡易書留・速達で郵送してください）

(4) 受験料および納入方法

受験料 35,000円

①出願シートの振込依頼書に記入の上、金融機関（銀行等）の窓口にて出願期間内に納入してください。

取扱金融機関収納印をもって納入とみなします。受験料領収書は本人控えです。

②いったん納入された受験料は返還しません。

(5) 感染症（インフルエンザ等）による受験料返還について

学校保健安全法施行規則第19条で出席停止が定められている感染症（インフルエンザ・はしか等）にかかり、治癒していない場合、その感染症が他の受験生や監督者に拡がるおそれがありますので、原則として入学試験の受験をご遠慮願います。

学校保健安全法施行規則第19条で出席停止が定められている感染症（インフルエンザ・はしか等）にかかり、治癒していないために本学入学試験を欠席する場合は、当該入学試験（欠席日分）にかかる受験料を返還いたしますので、本学HP（<http://www.ryukoku.ac.jp/admission/nyushi/syutsugan/henkan2.html>）を確認し、各自で手続きを行ってください。

(6) 試験日・試験会場

| 試験日 | 学 部 | 試験会場 |
|----------------|---------------------------------------|--------------------------------|
| 2017年11月11日(土) | 文学部・経済学部・経営学部・法学部・ 政策学部・国際学部・短期大学部 | 龍谷大学深草キャンパス (京都市伏見区深草塚本町67) |
| | 理工学部・社会学部・農学部 | 龍谷大学瀬田キャンパス (大津市瀬田大江町横谷1-5) |

(7) 試験時間・試験科目・合否判定

| 試験時間 | 8:50~9:10 | 9:10~10:10 | 10:30~ |
|------|-----------|------------|--------|
| 試験科目 | 説 明 | 小 論 文 | 面 接 |

試験開始後30分以上遅刻した者は、受験できません。

小論文・面接試験について

| | | |
|---------|-----|---|
| 文 学 部 | 小論文 | 受験生の論理的思考力や文章表現力等を評価し、文学部で学ぶにあたっての適性を判定します。 |
| | 面接 | 文学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）への深い理解を前提として、志望する学科・専攻に対する明確な動機と学習意欲などを中心に面接します。 |
| 経 済 学 部 | 小論文 | 受験生の論理的思考力や文章表現力等を評価し、経済学部での学修にあたっての適性を判定します。 |
| | 面接 | 経済学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）について事前に理解しておくことを前提に、出願書類を基に志望動機・大学での学修の抱負などを中心に面接します。 |
| 経 営 学 部 | 小論文 | 経営学部で学ぶにあたり、受験生の思考力や文章表現力等を評価し、適性を判定します。 |
| | 面接 | 経営学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）について事前に理解しておくことを前提に、出願書類を基にして、志望動機や大学での学業・課外活動の目標などをふまえて適性を判定します。 |
| 法 学 部 | 小論文 | 受験生の論理的思考力や文章表現力等を評価し、法学部で学ぶにあたっての適性を判定します。 |
| | 面接 | 法学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）について事前に理解しておくことを前提に、入学後も学業と課外活動に情熱を注ぎ続けられるだけの意欲と行動力の持ち主であるかどうかを確かめるとともに、法学部での学びの目標やどのような学生生活を送ろうとしているのか等を中心に面接します。 |

| | | |
|-------|-----|---|
| 政策学部 | 小論文 | 受験生の文章表現力や論理性などを評価し、政策学部で学ぶにあたっての適性を判定します。 |
| | 面接 | 政策学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）について事前に理解しておくことを前提に、政策学部での学びの目標やどのような学生生活を送ろうとしているのか等を中心に面接します。 |
| 国際学部 | 小論文 | 受験生の思考力、文章構成力などを評価し、国際学部で学ぶにあたっての適性や素質を判定します（グローバルスタディーズ学科では英語での小論文となります）。 |
| | 面接 | 国際学部での勉学を強く希望し入学を志す理由、学業と課外活動に情熱を注ぎ続けられる意欲と勤勉さの持ち主であるか、国際的コミュニケーションに重要な異文化を理解する素養を有しているかについて面接します（グローバルスタディーズ学科では日本語と英語を併用して面接を行います）。 |
| 理工学部 | 小論文 | 理工学部で学ぶ際に必要な論理的思考を見るためにあるテーマに沿った小論文を課し、その論理性や表現力について評価します。 |
| | 面接 | 理工学部への志望動機、勉学意欲、これまでに行ってきた活動内容などを確認し、コミュニケーション力などについて対話を通じて評価します。 |
| 社会学部 | 小論文 | 受験生の思考力、意見表明能力を評価し、社会学部で学ぶにあたっての適性・素質を判定します。 |
| | 面接 | 個人面接です。この試験では、社会学部での勉学を強く希望し入学を志すのかについての適性・素質を判定します。入学後も学業とスポーツ活動や文化・芸術・社会活動等に情熱を注ぎ続けることのできる強い意志を有しているかについても判定します。 |
| 農学部 | 小論文 | 受験生の論理的思考力や文章表現力などを評価し、農学部で学ぶにあたっての適性を判定します。 |
| | 面接 | 農学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）への深い理解を前提として、志望する学科に対する明確な動機と学習意欲などを中心に評価します。 |
| 短期大学部 | 小論文 | 短期大学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に記載された求める能力等のうち、読み書きなどの基礎的な学力、思考力、感性、目的意識や勉学意欲を中心に評価します。 |
| | 面接 | 短期大学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に記載された求める能力等のうち、行動力、主体的に学ぶ姿勢、社会性、コミュニケーション力、感性、思考力、短期大学部の教育理念についての理解、目的意識や勉学意欲を中心に評価します。 |

〈合否判定〉 出願書類、小論文、面接などを総合して、合否を判定します。1科目でも欠席した場合は、その試験日をすべて欠席扱いとし、結果は通知しません。

合格発表 「スポーツ活動選抜入学試験」「文化・芸術・社会活動選抜入学試験」共通

2017年11月18日(出)に、学校長宛に簡易書留・速達で、本人には特定記録・速達で郵送します。

【理工学部に入学者許可された場合】

普通科の場合、本学入学までに「数学Ⅲ」を学習してください。

普通科以外の場合、本学入学までに「数学Ⅲ」、「数学Bの『数列』、『ベクトル』」を学習してください。

入学手続 「スポーツ活動選抜入学試験」「文化・芸術・社会活動選抜入学試験」共通

合格者には、合格通知書とともに入学時までに必要な提出書類や手続方法を通知します。

所定の期日までに入学手続（ⅠおよびⅡ）を完了してください。

(1)入学手続Ⅰ 下記期間内に、入学申込金200,000円を納入してください。

手続期間 2017年11月20日(月)～2017年11月24日(金)

(2)入学手続Ⅱ 下記期間内に、入学時納入金と入学申込金との差額を納入してください。

手続期間 2017年11月20日(月)～2018年2月16日(金)

注1. 手続期間経過後の入学手続は、認められませんので充分注意してください。

2. 学費・諸会費については、13ページを参照してください。

3. 入学手続の詳細については、合格通知書送付の際通知します。

4. いったん納入された入学申込金は返還いたしません。

「入学準備サポートプログラム」の実施について

本学では、2017年度入学者を対象に、合格発表から入学までの期間を活用し、以下のとおり2つの「入学準備サポートプログラム」を実施いたしました。

現在、2018年度入学者に対する実施について検討しておりますので、下記を参照の上、予めご承知おきください。

〈参 考 ー 前年度 実施内容 ー〉

【1】入学準備サポートプログラム（全学）

大学と高等学校との学修の違いや、有意義な大学生生活の送り方を体感してもらうプログラムであり、入学にあたっての不安を解消し、学修に取り組む態度・知的好奇心を涵養するとともに、本学への帰属意識を高められるように実施し、893名の合格者が参加しました。

（主な実施内容）

- ・学長による建学の精神等の大学説明
- ・在学生による大学生生活プレゼンテーション
- ・学部別企画
- ・学生交流 など

（実施日時・学舎・学部）

2016年12月25日（日）12：30～17：15

〈深草学舎〉 文学部・経済学部・短期大学部

2016年12月26日（月）12：30～17：15

〈深草学舎〉 経営学部・法学部・政策学部・国際学部

〈瀬田学舎〉 理工学部・社会学部・農学部

※本サポートプログラムは任意参加ですが、出席することが望ましいプログラムとして位置づけています。

【2】入学準備サポートプログラム（各学部）

合格発表後においても学習の継続性を確保し、入学当初から高い学修意欲を持って学生生活をスタートするためのプログラムであり、学習教材を用いた自宅での課題取り組みを基本に実施しました。

（実施学部）

文学部・経済学部・法学部・政策学部・国際学部・理工学部・社会学部・農学部・短期大学部

※前年度、経営学部については、本プログラムは実施せず、上記【1】の全学版プログラム内において、入学にあたっての心構え等について説明しました。

（主な実施内容）

- ・文章表現力
- ・基礎英語
- ・物理基礎、化学基礎など

※本サポートプログラムは、各学部によってプログラム内容が異なります。

（実施期間）

2016年11月から2017年3月までの一定期間（学部ごとに設定）

■〈本件に関する問い合わせ先〉 龍谷大学 教学部（電話）075-645-7891

学 費 等

2018年度入学者の学費および諸会費は2017年9月に決定する予定です。9月に公表する大学ホームページおよび合格通知書に同封する書類でご確認ください。参考として、以下に2017年度入学者の学費および諸会費を掲載します。

●第1年次学費

(単位：円)

| | 文学部※4 経済学部 経営学部 | 法学部 | 政策学部 | 国際学部 | | 理工学部 | 社会学部 | 農 学 部 | | 短期大学部 | |
|-------------|-----------------------|-----------|-----------|------------|-------------------|-----------|-----------|--------------------|----------------|------------|-------------|
| | | | | 国際文化 学科 | グローバル スタディーズ学科 | | | 植物生命科学科 資源生物科学科 | 食料農業 システム学科 | 社会福祉 学科 | こども 教育学科 |
| 入学金 ※1 | 200,000 | 200,000 | 200,000 | 200,000 | 200,000 | 200,000 | 200,000 | 200,000 | 200,000 | 200,000 | 200,000 |
| 前期授業料 | 380,500 | 380,500 | 380,500 | 388,000 | 465,500 | 489,500 | 380,500 | 474,500 | 474,500 | 398,000 | 408,000 |
| 前期施設費 ※2 ※3 | 30,000 | 30,000 | 30,000 | 25,000 | 25,000 | 70,000 | 30,000 | 90,000 | 25,000 | 30,000 | 35,000 |
| 前期実験実習料・実習料 | — | — | 7,500 | 5,000 | — | 71,800 | 17,950 | 71,800 | 17,950 | 27,450 | 27,450 |
| 前期留学実習料 | — | — | — | — | 85,000 | — | — | — | — | — | — |
| 小計 (入学時納入金) | 610,500 | 610,500 | 618,000 | 618,000 | 775,500 | 831,300 | 628,450 | 836,300 | 717,450 | 655,450 | 670,450 |
| 後期授業料 | 380,500 | 380,500 | 380,500 | 388,000 | 465,500 | 489,500 | 380,500 | 474,500 | 474,500 | 398,000 | 408,000 |
| 後期施設費 ※2 ※3 | 30,000 | 30,000 | 30,000 | 25,000 | 25,000 | 70,000 | 30,000 | 90,000 | 25,000 | 30,000 | 35,000 |
| 後期実験実習料・実習料 | — | — | 7,500 | 5,000 | — | 71,800 | 17,950 | 71,800 | 17,950 | 27,450 | 27,450 |
| 後期留学実習料 | — | — | — | — | 85,000 | — | — | — | — | — | — |
| 小計 (後期納入金) | 410,500 | 410,500 | 418,000 | 418,000 | 575,500 | 631,300 | 428,450 | 636,300 | 517,450 | 455,450 | 470,450 |
| 合計 (初年度納入金) | 1,021,000 | 1,021,000 | 1,036,000 | 1,036,000 | 1,351,000 | 1,462,600 | 1,056,900 | 1,472,600 | 1,234,900 | 1,110,900 | 1,140,900 |

※1. 入学金は入学年度のみ納入していただきます。

※2. 施設費は、文系学部（国際学部・短期大学部を除く）の場合は、年間260,000円、国際学部の場合は、年間250,000円、理工学部の場合は、年間340,000円、農学部の場合は、植物生命科学科・資源生物科学科は年間380,000円、食料農業システム学科は年間250,000円ですが、入学時の学費負担軽減を図るため、入学初年度（1年次）は、年間200,000円を減免しています。

※3. 施設費は、短期大学部の場合は、社会福祉学科は年間360,000円、こども教育学科は年間370,000円ですが、入学時の学費負担軽減を図るため、入学初年度（1年次）は、年間300,000円を減免しています。

※4. 文学部歴史学科文化遺産学専攻は実習料として、前期17,950円、後期17,950円を納入していただきます。

●第1年次諸会費

(単位：円)

| | 文学部 経済学部 経営学部 | 法学部 | 政策学部 | 国際学部 | | 理工学部 | 社会学部 | 農 学 部 | | 短期大学部 | |
|--------------|---------------------|--------|--------|------------|-------------------|--------|--------|--------------------|----------------|------------|-------------|
| | | | | 国際文化 学科 | グローバル スタディーズ学科 | | | 植物生命科学科 資源生物科学科 | 食料農業 システム学科 | 社会福祉 学科 | こども 教育学科 |
| 諸会費 (入学時納入金) | 31,500 | 32,500 | 32,500 | 32,500 | 32,500 | 31,500 | 30,500 | 31,500 | 31,500 | 31,500 | 31,500 |
| 諸会費 (後期納入金) | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 |
| 合計 (初年度納入金) | 33,000 | 34,000 | 34,000 | 34,000 | 34,000 | 33,000 | 32,000 | 33,000 | 33,000 | 33,000 | 33,000 |

注) 諸会費の内訳について

(1) 諸会費は、学会・学友会・親和会・校友会からの委託徴収金です。

(2) 各学部等には、それぞれの学術研究の推進のために、専任教員、大学院生、学部学生等で構成する学会を設けています。その学会の会費として、入会金2,000円（社会学部を除く）、学会費 [文学部・経済学部・経営学部・理工学部・農学部・短期大学部はそれぞれ年間3,000円、法学部・政策学部・国際学部・社会学部はそれぞれ年間4,000円] を納入していただきます。

(3) 学友会は、すべての学生によって構成され、学生の声を反映させながら学生生活の改善・向上に取り組んでいる学生自治会です。その会費として、入会金4,500円、学友会費年間3,500円（前期2,000円、後期1,500円）を納入していただきます。

(4) 親和会は、学生の保護者をもって構成され、龍谷大学の発展に資し、あわせて会員相互の親睦を図ることを目的としています。その会費として、入会金3,000円、親和会費年間7,000円を納入していただきます。

(5) 校友会は、龍谷大学および短期大学部を卒業した人等で、組織されています。終身会費として、40,000円納入していただくことが必要ですが、この会費のうち、10,000円を入学時に予納していただくものです。残額については、卒業年次に納入していただきます。

●第1年次納入金総額

(単位：円)

| | 文学部※4 経済学部 経営学部 | 法学部 | 政策学部 | 国際学部 | | 理工学部 | 社会学部 | 農 学 部 | | 短期大学部 | |
|-------------|-----------------------|-----------|-----------|------------|-------------------|-----------|-----------|--------------------|----------------|------------|-------------|
| | | | | 国際文化 学科 | グローバル スタディーズ学科 | | | 植物生命科学科 資源生物科学科 | 食料農業 システム学科 | 社会福祉 学科 | こども 教育学科 |
| 入学時納入金合計 | 642,000 | 643,000 | 650,500 | 650,500 | 808,000 | 862,800 | 658,950 | 867,800 | 748,950 | 686,950 | 701,950 |
| 後期納入金合計 | 412,000 | 412,000 | 419,500 | 419,500 | 577,000 | 632,800 | 429,950 | 637,800 | 518,950 | 456,950 | 471,950 |
| 総計 (初年度納入金) | 1,054,000 | 1,055,000 | 1,070,000 | 1,070,000 | 1,385,000 | 1,495,600 | 1,088,900 | 1,505,600 | 1,267,900 | 1,143,900 | 1,173,900 |

注) 後期納入金は、9月末日を納入期限としています。納入用紙は、9月上旬に経理課から郵送いたします。

「活動実績証明書」記入要領

- 「スポーツ活動選抜」出願者と「文化・芸術・社会活動選抜」出願者で様式が異なります。該当する様式に記入してください。
- 「スポーツ活動」と「文化・芸術・社会活動」の両方の活動実績で出願することはできません。(必ずいずれか一方のみの出願としてください)

1. 「スポーツ活動」での出願について

- (1) 「スポーツ活動」で出願する場合に記入してください。
- (2) 競技実績については、大会の優先順位（下の表参照）に基づき、上位3つを記入してください。
※地区大会での優勝よりも、全国大会「出場」を優先とします。
- (3) 客観的資料を添付してください。
客観的資料の例 新聞・雑誌の切り抜き、表彰状等のコピー、大会パンフレットの記載箇所のコピー等
※必ず選手名、大会名が表記されているものを添付してください。なお、選手名記載箇所のみでは大会名が判明しない場合は、大会名が判る資料（例：大会パンフレットの表紙等）を必ず添付してください。
資料は、整理の都合上、A4サイズに統一し（小さい記事もA4サイズの台紙に貼付してください）、大会毎に所定の「活動実績証明書資料表紙」をつけて、ホッチキスで留めてください。
その際、資料表紙の資料番号欄には、活動実績証明書の資料番号に符号する番号を記入し、各資料には1-1・1-2のように、大会別に順に番号を記入してください（例：資料番号1の資料が5枚ある場合は、1-1～1-5と付番）。また、大会名、選手名記載箇所は、確認しやすいよう蛍光ペン等でマークしてください。
- (4) 客観的資料が添付されていない場合は、該当する実績を無効とします。
- (5) 「記載者署名欄」の記載者は、必ず部長・監督等責任ある地位の方を記載者としてください。
- (6) 大会名、戦績については表現を統一（下の表参照）してください。大会レベルの優先順位はアルファベット順とし、大会の中の優先順位は番号の若い方を優先してください。

| | a. 世界大会 | b. 全国大会 | c. 地区大会 | d. 都道府県大会 |
|-----|---|--|---|--|
| 大会名 | ①オリンピック ②世界選手権・選抜大会 ③地域大会 (例：アジア大会など) ④国別対抗 | ①インターハイ(←全国高校総体) ②国体(←国民体育大会) ③全国選手権大会 ④全国選抜大会 ⑤全国大会 | ①〈大会名〉〈地区名〉予選 ②〈地区名〉選手権大会 ③〈地区名〉選抜大会 ④〈地区名〉大会 | ①〈大会名〉〈都道府県名〉予選 ②〈都道府県名〉選手権大会 ③〈都道府県名〉選抜大会 ④〈都道府県名〉大会 |
| 戦績 | 優勝、準優勝、3位、4位、5位、6位、7位、8位、ベスト4、ベスト8、ベスト16と記入。 上記以外は「出場」と記入。 | 優勝、準優勝、3位、4位、5位、6位、7位、8位、ベスト4、ベスト8、ベスト16と記入。 上記以外は「出場」と記入。 | 優勝、準優勝、3位、4位、5位、6位、7位、8位、ベスト4、ベスト8、ベスト16と記入。 上記以外は「出場」と記入。 | 優勝、準優勝、3位、4位、5位、6位、ベスト4 ※団体の場合、「7位」「8位」「ベスト8」も記載 |

※大会が「—兼—」の場合、優先順位（大会名の丸数字）によりどれか一つを選択してください。

例) インターハイ兼全国選手権大会→インターハイ

※〈地区名〉は「地区」を省略して記載してください。例) 近畿地区大会→近畿大会

※成人を含めた大会の場合は、「(成人含む)」と付記してください。例) 全国選手権大会(成人含む)

※参加校等が限定された大会(私学大会、新人大会等)を実績とすることはできません。

- (7) 団体の場合は、レギュラー(登録メンバー)であり、必ず個人名が記載されている資料を添付してください。
- (8) 主将、部長、代表、大将、エース等特筆すべきことがあれば戦績の後に付記してください(副主将は記載しないこと)。

2. 「文化・芸術・社会活動」での出願について

- (1) 「文化活動・芸術活動・社会活動」で出願する場合に記入してください。
- (2) 客観的資料を添付してください。
客観的資料の例 新聞・雑誌の切り抜き、表彰状等のコピー、大会パンフレットの記載箇所のコピー等
※必ず個人名、大会名等が表記されているものを添付してください。なお、個人名記載箇所のみでは大会名等が判明しない場合は、大会名等が判る資料（例：大会パンフレットの表紙等）を必ず添付してください。
資料は、整理の都合上、A4サイズに統一し（小さい記事もA4サイズの台紙に貼付してください）、大会等毎に所定の「活動実績証明書資料表紙」をつけて、ホッチキスで留めてください。
その際、資料表紙の資料番号欄には、活動実績証明書の資料番号に符号する番号を記入し、各資料には1-1・1-2のように、大会別等に順に番号を記入してください（例：資料番号1の資料が5枚ある場合は、1-1～1-5と付番）。また、大会名等、個人名記載箇所は、確認しやすいよう蛍光ペン等でマークしてください。
- (3) 客観的資料がない場合は、該当する実績を無効とします。
- (4) 「記載者署名欄」の記載者は、必ず部長・監督等責任ある地位の方を記載者としてください。
- (5) 団体の場合は、レギュラーであり、出場した大会・コンクール等に限り記載し、必ず個人名が記載されている資料を添付してください。
- (6) 部長、代表等特筆すべきことがあれば戦績の後に付記してください(副部長は記載しないこと)。

入学後の奨学金について

本学で取扱っている主な奨学金は下記のとおりです。

これ以外にも民間奨学団体・地方公共団体などの奨学金があります。

| | | | |
|-------------------------|-------------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 課外活動などスポーツ・文化活動を奨励する奨学金 | 優秀スポーツ選手奨学金〈給付〉〈他薦〉 | 経済的理由により修学困難な学生を援助する奨学金 | 家計奨学金〈給付〉 家計急変奨学金〈給付〉 |
| | 課外活動等奨学金〈給付〉〈他薦〉 | | |
| | 親和会団体奨励金〈給付〉 (サークル等団体へ給付) | | 仏教活動奨学金〈給付〉 |
| 海外研修を奨励する奨学金 | 親和会海外研修奨学金〈給付〉 | その他の奨学金 | 本願寺派教学助成財団奨学金〈給付〉 |
| 学業成績優秀者を対象とした奨学金 | アカデミック・スカラーシップ 〈在学採用型〉〈給付〉 | | 災害給付奨学金〈給付〉 |

奨学金に関するお問い合わせは、龍谷大学学生部（TEL：075-645-7889）までお願いします。

龍谷大学給付奨学生（優秀スポーツ選手奨学生）＜S給付＞について

龍谷大学では、課外活動を「正課授業とあいまって大学教育の重要な一環」として位置づけ、課外活動の活性化策を進めています。

その課外活動活性化策の一つとして、また本学学生スポーツの高度化の方策として「龍谷大学給付奨学生（優秀スポーツ選手奨学生）」制度の中に、学費相当額を奨学金とする＜S給付＞を設けています。

この制度は、本学体育局所属サークルの中で重点・強化サークルを中心にして、大学スポーツ界をリードし、また社会等で確固たる地位を築きつつ、国内トップレベル・国際レベルの選手を育成しようとするものです。

1. 目的

本奨学生制度は、特に優れたスポーツ能力を有する者に、学費相当額の奨学金を給付することにより、その競技能力のさらなる向上と、学業環境の一助として機能することを目指し、ひいては、カレッジスポーツの範となり、本学の課外活動全般に対する活性化を促進させることを目的としています。

2. 出願資格

本奨学金制度に出願できる者は、本学の「スポーツ活動選抜入学試験」の出願資格を有し、かつ下記の「6. 推薦基準」に該当する実績を有する者です。

3. 給付額および採用人数

給付額：学費相当額 採用人数：11名

※学費とは、＜入学金＞＜授業料＞＜施設費＞＜実験実習料・実習料＞＜留学実習料＞のことをいいます。

奨学金は、入学後に所定の手続きを経て給付します。従って、本奨学金採用予定者は、入学手続きに必要な入学申込金や前期授業料等の入学時納入金を入学前に納入する必要があります。

4. 採用期間

4年間の給付を原則とします（ただし、1年ごとに採用継続の可否について審査をします）。

5. 募集競技種目

出願できる競技種目は、本学重点サークルである「アメリカンフットボール部」「硬式野球部」、強化サークルである「柔道部」「卓球部」「端艇部」「女子バレーボール部」「バドミントン部」「ラグビー部」「陸上競技部」を中心に、本学体育局に所属している全競技種目が対象となります。

6. 推薦基準

(1)重点・強化サークル関係

| | |
|---------------|---|
| 〈アメリカンフットボール〉 | ①U19日本代表メンバー |
| | ②関西高校選抜（パシフィックリムボウル）代表メンバー |
| | ③上記①②に準ずる資質を有すると客観的に認められる者 |
| 〈硬式野球〉 | ①日本高校野球連盟が選出した日米親善高校野球大会、アジアAAA野球選手権大会の全日本選抜メンバー |
| | ②選抜高校野球大会、全国高校野球選手権大会、明治神宮野球大会に出場したチームのレギュラー（出場）選手で、その資質が客観的に高く評価された者 |
| | ③上記①②に準ずる資質を有すると客観的に認められる者 |
| 〈柔 道〉 | ①全国高校総体、全国高校選手権大会の個人戦ベスト8以上の者 |
| | ②全日本ジュニア体重別選手権大会に出場した者 |
| | ③全国高校総体、全国高校選手権大会、金鷲旗高校大会の団体戦3位以上のレギュラー（出場）選手 |
| | ④上記①②③に準ずる資質を有すると客観的に認められる者 |
| 〈卓 球〉 | ①全日本選手権（ジュニアの部含む）のシングルス ベスト32以上、ダブルス ベスト16以上の者 |
| | ②全国高校総体のシングルス ベスト16以上、ダブルス ベスト8以上の者 |
| | ③全国高校選抜、全国高校総体、国民体育大会少年の部の学校対抗（団体戦）のベスト8以上のレギュラー（出場）選手 |
| | ④上記①②③に準ずる資質を有すると客観的に認められる者 |
| 〈端 艇〉 | ①国民体育大会高校の部、全国高校総体3位までの入賞者 |
| | ②（社）日本ボート協会主催または主管する競漕会において3位までの入賞者 |
| | ③世界ジュニア、アジアジュニアエントリヤー |

| | |
|------------|--|
| 〈女子バレーボール〉 | ①全日本ユース、全日本ジュニアまたは全日本高校選抜東西対抗戦（全日本ジュニアオールスタードリームマッチ）のメンバーに選抜された者 |
| | ②国民体育大会、全国高校総体、全日本高校選手権大会3位以上のレギュラー（出場）選手 |
| | ③上記①②に準ずる資質を有すると客観的に認められる者 |
| 〈バドミントン〉 | ①日本ジュニアナショナルチーム（U19）に選抜された者 |
| | ②全日本総合選手権大会の出場資格を有する者 |
| | ③全日本ジュニア選手権大会、全国高校選抜大会、全国高校選手権大会の個人戦（シングルス・ダブルス）ベスト8以上の者 |
| | ④全国高校選抜大会、全国高校選手権大会の団体戦ベスト4以上のレギュラー（出場）選手 |
| | ⑤上記①②③④に準ずる資質を有すると客観的に認められる者 |
| 〈ラグビー〉 | ①U17またはU20日本代表メンバー |
| | ②高校日本代表メンバー |
| | ③上記①②に準ずる資質を有すると客観的に認められる者 |
| 〈陸上競技〉 | ①国民体育大会高校の部、全国高校総体、日本ジュニア・ユース選手権大会の3位までの入賞者 |
| | ②種目別の陸連公認記録（高校の部）6位以内の者 |
| | ③都道府県大会以上の駅伝競技の区間賞者 |

(2)その他のサークル

全日本大会出場者、世界大会（オリンピックを含む）出場者の内、特にその素質が顕著な者。

(共通注意事項)

- ・上記基準を、資料等のあらゆる要素を加味し総合的に厳格審査することが基本であるが、その基準に準ずる者も審査対象に含める。
- ・全日本級とは、全日本高校級（素質を加味する）も含む。

7. 出願書類

2018年度龍谷大学給付奨学生（優秀スポーツ選手奨学生）＜S給付＞申請書

この奨学生採用に関する事項は龍谷大学学生部（TEL：075-645-7889）へお問い合わせください。

サークル一覧表

■体育局

柔道部
相撲部
剣道部
硬式野球部
端艇部
弓道部
卓球部
ラグビー部
陸上競技部
自動車部
ソフトテニス部
山岳部
ボクシング部
男子バスケットボール部
男子バレーボール部
少林寺拳法部
ユースホステル部
フェンシング部
居合道部
バドミントン部
日本拳法部
ワンダーフォーゲル部

スキー部
合気道部
サッカー部
アイススケート部
硬式庭球部
洋弓部
空手道部
航空部
自転車部
女子バスケットボール部
女子バレーボール部
ソフトボール部
アメリカンフットボール部
ヨット部
ゴルフ部
ハンドボール部
準硬式野球部
ラクロス部
龍魂編集室
バトン・チア・SPIRITS
水上競技認定同好会

■宗教局

男声合唱団
宗教教育部
伝道部
仏教青年会
パイオニアクラブ
仏像研究会

■放送局

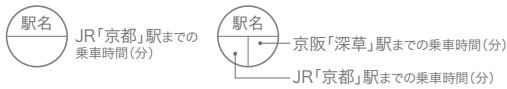
放送局

■学術文化局

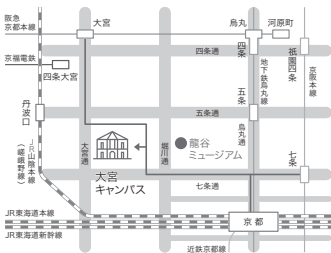
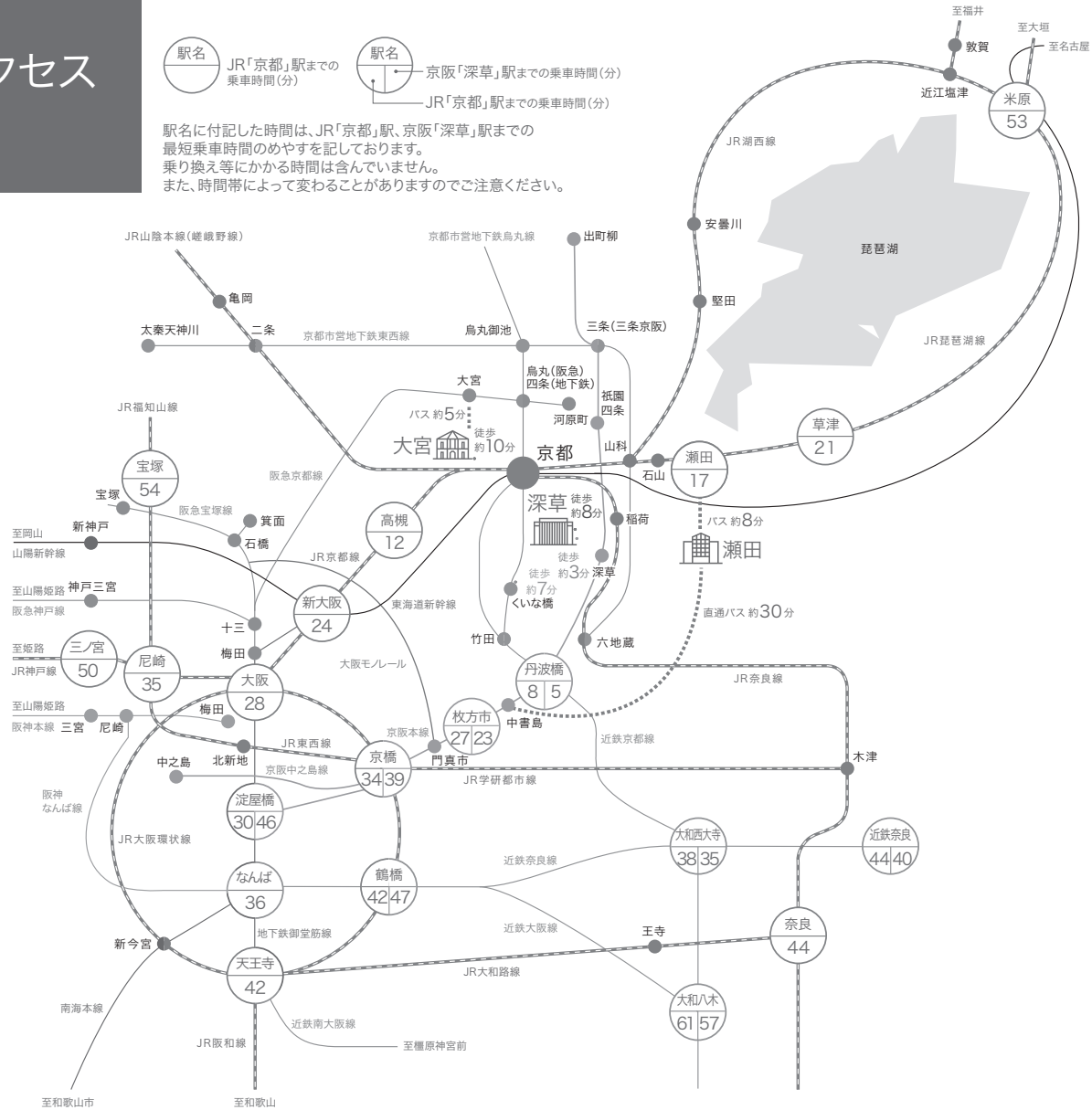
能楽部
邦楽部
劇団未踏座
池坊華道部
龍吟研究会
落語研究会
E.S.S.
書道部
美術部
写真部
映画研究会

文芸部
茶道部
陶芸部
フォークソング認定同好会
軽音楽部
混声合唱団
マンドリンオーケストラ
吹奏楽部
税務会計学研究会
経済研究会
広告研究会
心理学研究会
考古学研究会
古美術研究会
マスコミュニケーション研究会
旅行研究会
新聞研究会
釣研究会
愛棋会
ボランティアサークル
野外活動部
交響楽団

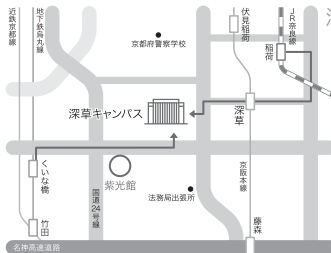
アクセス



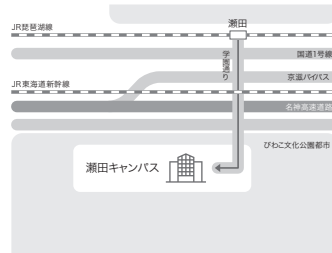
駅名に付記した時間は、JR「京都」駅、京阪「深草」駅までの最短乗車時間のめやすを記しております。乗り換え等にかかる時間は含んでいません。また、時間帯によって変わることがありますのでご注意ください。



- JR東海道本線・近鉄京都線「京都」駅下車、北西へ徒歩約10分(市バス約3分)
- 京阪本線「七条」駅下車、西へ徒歩約20分
- 阪急京都本線「大宮」駅下車、南へ徒歩約20分(市バス約5分)



- JR奈良線「稲荷」駅下車、南西へ徒歩約8分
- 京阪本線「深草」駅下車、西へ徒歩約3分
- 京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約7分



- JR琵琶湖線「瀬田」駅下車、車産バス約8分
- 京阪本線「中書島」駅下車、京阪バス約30分



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

入試部

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-7887 (入試部ダイヤルイン) Fax 075-645-4155
<http://www.ryukoku.ac.jp/admission/>

| | | | |
|---------|---------|--|--|
| 大宮キャンパス | 文学部 | 真宗学科、仏教学科、哲学科(哲学専攻・教育学専攻)、臨床心理学科、歴史学科(日本史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻・文化遺産学専攻)、日本語日本文学科、英語英米文学科 | |
| | 大学院 | 文学研究科、実践真宗学研究科 | |
| 深草キャンパス | 文学部 | 真宗学科、仏教学科、哲学科(哲学専攻・教育学専攻)、臨床心理学科、歴史学科(日本史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻・文化遺産学専攻)、日本語日本文学科、英語英米文学科 | |
| | 経済学部 | 現代経済学科、国際経済学科 | |
| 瀬田キャンパス | 経営学部 | 経営学科 | |
| | 法学部 | 法律学科 | |
| 大宮キャンパス | 政策学部 | 政策学科 | |
| | 国際学部 | 国際文化学科、グローバルスタディーズ学科 | |
| | 短期大学部 | 社会福祉学科、こども教育学科 | |
| | 大学院 | 法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、国際文化研究科 | |
| | 理工学部 | 数理情報学科、電子情報学科、機械システム工学科、物質化学科、情報メディア学科、環境ソリューション工学科 | |
| | 社会学部 | 社会学科、コミュニティマネジメント学科、現代福祉学科 | |
| | 農学部 | 植物生命科学科、資源生物科学科、食品栄養学科、食料農業システム学科 | |
| | 大学院 | 社会学研究科、理工学研究科、農学研究科(設置認可申請中) | |
| | 大宮キャンパス | 文学部 | 真宗学科、仏教学科、哲学科(哲学専攻・教育学専攻)、臨床心理学科、歴史学科(日本史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻・文化遺産学専攻)、日本語日本文学科、英語英米文学科 |
| | | 大学院 | 文学研究科、実践真宗学研究科 |